

知事と青森の未来を語り合う

2月6日（火）、三村申吾県知事が高校生と将来の夢や青森県の未来を語り合う「知事とのフレッシュトーク」が鶴田高等学校で行われ、生徒からの観光PRや保健医療などに関する質問に対し、三村知事が軽快なトークを交えて県の取り組みを紹介しました。

2年生の坂本詩織さんは、短命県返上と健康寿命延伸の取り組みについて質問。三村知事は「塩分、酒、たばこなど成人病の要因となるものが青森県はトップクラス」と述べた上で、「県では、だしを活用しておいしく減塩を推進する『だし活』を薦めて健康づくりを頑張っています」と答え、県産食材を使用しだし商品「できるだし」のダンスを生徒と一緒に踊り、だし活をPRしていました。



△生徒からの質問に対し、県の取り組みを紹介する三村知事（右）



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

第二の人生の出発をお祝い

2月11日（日）、今年度還暦を迎えた町民を祝う「実年式」（松山淳実行委員長）が町国際交流会館で開催され、出席した町民と町出身者77人が旧友との再会を喜び、近況を語り合いました。

還暦は、60年で干支が一回りし、生まれた年と同じ干支の「本卦還^{ほんけ}り」とされています。

式では、出席者が国歌と町民歌を斉唱し、町民憲章を唱和。相川町長が「本日は皆さまの第二の人生の出発である慶びの日。懐かしい思い出やこれからの抱負などを語り合い楽しい時間を過ごしてほしい」と式辞を述べました。

このほか、式典前には厄払いと健康長寿の祈願が執り行われました。



△実年式で町民歌を斉唱する出席者

獅子舞の伝統を後輩に託す

富士見小学校では2月15日（木）、同校児童が伝承に取り組んでいる地域の伝統芸能「西中野獅子舞」の引き継ぎ式が行われました。

雄獅子を担当した6年生の秋庭友香さんは「私たち以上の獅子舞を目指して頑張ってください」とエールを送り、獅子頭などの道具を引き渡しました。獅子舞を指導する獅子舞応援隊の川村武悦さんは、6年生に「この経験をこれからも生かしてほしい」、5年生には「みんなの憧れの的となるように頑張してほしい」と話していました。

西中野獅子舞は江戸時代から地域に伝わるとされ、同小学校の前身の旧木筒小学校で昭和52年から地域住民の手で継承活動が行われています。



△囃子の演奏に合わせて、最後の獅子舞を披露する6年生



△中野さん（左）と雪の中からリンゴを運び出す児童

雪室リンゴのおいしさに喜び

2月19日（月）、水元中央小学校の5年生10人が中野光彦さん（妙堂崎）の自宅敷地内で、昨年12月から雪の中で貯蔵してきた「雪室リンゴ」の掘り出しを体験しました。

児童は、昨年春に人工授粉を行ったサンふじや王林など5種類のリンゴが入った箱をスコップで掘り出しました。リンゴはその場で切って振る舞われ、みずみずしい果汁と甘いにおいに児童たちは「すごく甘い」「冷蔵庫で保管するのとは違っておいしかった」と笑顔で食べていました。

中野さんは「みんなが人工授粉を頑張ったからおいしいリンゴになった。雪の中に入れるだけでおいしくなるからやってみて」と話していました。

だし活で健康的な生活を

町では、農家の生産技術の向上や経営安定に役立ててもらおうと、「農業大学講座」を2月21日（水）～23日（金）、町農村環境改善センター「豊明館」で開催しました。参加者は、講義や視察研修を通して、農産物の病気対策や六次産業化の取り組みについて理解を深めていました。

23日には、だしソムリエ協会認定講師の奥村雅美さんが「だし活で農作業もバッチリ」と題し、だしのうまみを活用して減塩を推進する「だし活」について講義しました。奥村さんは「だしを楽しむことで食のあり方を変えることができます。だし活を普段の生活に取り入れて、おいしく健康を保ち続けて」と参加者にアドバイスしました。



△だし活について講義する奥村さん